

伊勢物語

さらぬ別れ

昔、男ありけり。身はいやしながら、母なむ宮¹なりける。その母、長岡²といふ所に住み給^{たま}ひけり。子は京に宮仕へしければ、まうづとしけれど、しばしばえまうでず。ひとつ子にさへありければ、いとかなしうし給ひけり。さらに、十二月^{しはす}ばかりに、とみのこととて、御文^{ふみ}あり。驚きて見れば、歌あり。

老いぬればさらぬ別れのありといへばいよいよ見³まくほしき君かな
かの子、いたううち泣きて詠める。

世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もと祈る人の子のため

(第八四段)



¹宮 天皇の子。
²長岡 現在の京都府長岡京市・向日市辺り。

³見まくほしき 「まくほしき」は「まほしき」に同じ。